

研修医通信

VOL.99 令和元年12月号

済生会松阪総合病院 研修医 中嶋麻有里

三重大学医学部付属病院 初期研修医2年目 植地南月

指導医の先生を含め多くの先生方、看護師の方々、その他病院スタッフの方に大変お世話になりました。7月から半年間、内科と外科で研修させていただき、不慣れで未熟な点も沢山ありご迷惑おかけしましたが、先生方や看護師の方々が丁寧に指導していただき、半年間充実した研修をすることができました。

半年間の研修で得たもの、感じたものは沢山ありますが、特に高齢者地域での医療を改めて考え学ぶこととなりました。紀南地域は私の地元なので、ご高齢の方が多くことは知っていましたが、社会背景や医療に関する問題については、こちらで研修しなければ考えることももっと少なかっただろうと思いました。内科研修中も入院から退院後まで患者さん一人一人を診させていただき、その中で、患者さんを生活背景から、最終的なゴールを考える機会が多くありました。治療をどこまでするか、どういった形で人生の最後を迎えることが患者さんにとって一番なのか、そういったことを考えながら行動していくようになりました。外科研修においても、ご高齢の患者さんが多く、沢山の手術や手技を経験させていただきましたが、手術だけでなくターミナルケアを学ぶ機会も多くありました。特にこの地域ではそういった経験が多いかもしれませんが、今後どのような病院で働くにしろ、少なくとも避けては通れない医療を行う上で重要なものだと改めて思い、紀南病院でそのような経験を沢山することが出来て本当に良かったと思っています。

正直、地元だからというものもありますが、不便なところも多く、へき地と呼ばれる地元にあまりよく思えない時期もありました。しかし今回、紀南地域での医療に携わり、さらに紀南地域を知ることができ、もっと好きになることが出来ました。先生方や他の研修医、地元の方たちと紀南地域の話をしたり、食事をしたりする機会も沢山あり、楽しい思い出も沢山出来ました。今後の研修においても今回学ばせてもらったことを生かし、沢山の経験を積んでいきたいと思っています。そして将来、少しでも地元で役立つことが出来たらと思っています。

今月の研修が始まる際には、「こんな頼りない自分が無事に1ヶ月過ごせるのだろうか…」と非常に不安に思いながらも、自分で選択したのだからやるしかないと自身に言い聞かせて紀南病院にまでやってきました。しかし、いざ終わってみたらあっという間の1ヶ月で、もっとあれもこれもしたいといった欲も出てきて、もう1ヶ月研修したいとまで思うようになっていました。ひとえに、指導医である野田先生をはじめ先生方やメディカルの方々、事務の方々、地域の方々などがとても温かく受け入れてくださったお陰です。

病院内の研修だけでなく、診療所研修や離島研修、ふるさと訪問、消防署研修など地域に出て行く機会が多いのも紀南病院での研修の特徴の一つだと思いました。実際に経験してみても初めて、これまでの体験や知識とリンクするといった感覚をたくさん味わいました。

来年度から形成外科を専門とし、その前に地域医療と形成外科の関わりを見つけようという目標を持ってきましたが、紀南病院での研修が終わる前に自分の中でこれといった答えを出せませんでした。ただ、この課題は一旦持ち帰って、今後も仕事をして行く上で考えていきたいと思っています。そして何らかの形で地域医療に貢献できるような機会を作ればと思っています。

また、指導医である野田先生には医学的なことを教えていただいただけでなく、本当に様々なこととお話していただきました。これまで、自分の生き方は自分がしたいようにするだけで、誰かを目標にするとかはないな、と思っていましたが、何にでも一生懸命で、楽しんでいられるエネルギッシュな野田先生の側で研修させていただいて、自分もこんな風に仕事をしたいと、ロールモデルとなる医師に出会うことができたのも非常に良い経験となりました。

ここでの経験を活かし、より一層精進して参ります！

1ヶ月間、本当にありがとうございました。



ドクヘリで搬送するまでの一連の流れを初めて経験しました。



神島から望む渥美半島。神島は絶景ばかりでした。出身の知多半島もよくみると見えました。



ふるさと訪問と一緒に散歩をした地元の方